

夏合宿に参加の皆様、きれいな星空を堪能の事と思います。

今年も参加できず残念ですが、8月は福島県田村市の「星の村天文台」を訪問しています。次回はその報告を予定しています。

さて、今回はちょっと暗い土星が撮れるのか試してみました。

天気が悪く、撮影は2回のみ（5月）、動画撮影時間は3分、registaxで合成です。



土星にも使えます。ベランダで極軸を適当に合わせている為完全に追尾できないので registax6 では継ぎ目がでてしまいます、画像を半分に縮小して目立たなくしています。

惑星や月面の画像処理では registax が必須ですが、強めに処理をすると、色のずれがでてしまいます。今回は、「HSV チャンネル分解」を

使って画像処理を実施してみました。

画像を色相、彩度、明度に分解し、（3枚のレイヤーに分解）明度レイヤーにアンシャープマスクをかけて合成します。アストロアーツでは、RGB分解を紹介していますが、コンデジ適当撮影

ではHSV分解で処理する方が良い結果が得られます。火星も再処理してみました。下の月面写真はスタックのみ registax を使い、あとはHSV分解で処理をしたものです。すっきりした感じで目視に近いかな？

コンデジは天体撮影に使えるのか

「望遠鏡を覗きながら使えるコンデジは何を買えばいいの？」と相談される事があります。

高いのから安いものまで種類は多くどれを薦めればよいか迷いますが、ポイントは一箇所「マニュアルフォーカスが可能なもの」。月面や惑星は明るさが足らず、コントラストも低い、さらに揺らぎがあり、安定していません。オートフォーカスで「ピシッと合焦」は難しい（かなり明るい月面なら可能）。マニュアルフォーカス付であれば、いまどきのデジカメなら基本性能は高いので何でも良いです。無限遠で撮影出来ます。望遠鏡との接続は工夫してください（アダプタも各種ありますが、私は自作）。リモコンが使えるならなお良い。なければタイマーを使用してください。

